

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
専門学校名古屋デザイナー学院		1977/4/1		北代 雅典		〒 460-0008 (住所) 愛知県名古屋市中区栄5-1-3 (電話) 052-262-0683			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人Adachi学園		1967/1/12		安達 暁子		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 03-5283-6288			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	マンガ学科		令和 2(2020)年度	-	-			
学科の目的	本学科は、デザインに関する専門分野のスペシャリストとして必要な基本的知識、技術、人格、徳性を習得させることを教育の基本と位置付け、問題解決のための発想力・応用力の向上を目指し、実務適応できる人材育成をすることを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	■中退防止・中退者支援のための取組み カウンセリングやオンラインでのサポート、また転科の実施等。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	
		120 単位		36 単位	36 単位	128 単位	0 単位	2 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
80 人	221 人	0 人		0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C)		88 人						
	■就職希望者数(D)		42 人						
	■就職者数(E)		42 人						
	■地元就職者数		24 人						
	■就職率(E/D)		100 %						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		57 %						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		48 %						
	■進学者数		1 人						
	■その他								
	1名 大学通信教育部へ進学 (令和 4 年度卒業者に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無						
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	http://www.n-designer.net/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				単位時間				
教員の属性(専任教員について記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間				
	うち必修授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間				
	(B: 単位数による算定)								
	総授業時数				202 単位				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				8 単位				
	うち企業等と連携した演習の授業時数				12 単位				
うち必修授業時数				96 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				8 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				12 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				2 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人				
	計				3 人				
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

各分野のエキスパートになるための専門知識・技術の習得と教養豊かな人間を形成する教育により、社会人基礎力・人間力・基礎学力を基本とし、専門的知識・技術の習得と業務への適応力、自己啓発・自己形成の意欲向上、社会貢献できる人材を育成する授業カリキュラムの編成を行う。授業カリキュラムの編成にあたり、本校の教員のみならず、外部の企業・業界の有識者と連携し、より実践的な授業科目の開設や業界の動向を含めた授業内容の改善を行うことを基本とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学科運営の取決事項に関わる会議体において、本委員会での事案を審議する位置付けとする。

＜教育課程編成 意思決定の過程＞

1.教育課程編成委員会における提案・改善等の事項

↓

2.学科担任は、教育課程編成委員会における提案・改善等の事項を踏まえた授業カリキュラムを作成

↓

3.校長は、2.で作成された改定案のとりまとめを行う

↓

4.校長は、評議会・理事会(学科運営の取決事項に係る会議体)において、事案の審議要求を行う

↓

5.議決(採用内容は、学則等へ反映し、授業カリキュラムを変更)

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
村松 誠	一般社団法人日本学芸振興會 事務局長	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	①
伊藤 章	株式会社AKR 代表取締役	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	③
山田 豊治	株式会社TCG 代表	令和4年3月21日～令和6年3月20日(2年)	③
北代 雅典	学校長	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—
山田 佳毅	事務長	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—
石川 羅門	学務責任者	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—
青山 とまり	マンガ学科担任	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—
齋藤 渉	マンガ学科担任	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—
小林 優一	マンガ学科教員	令和5年3月21日～令和8年3月20日(3年)	—
鈴木 人也	キャリアサポートセンター	令和4年3月21日～令和7年3月20日(3年)	—
山口 邦幸	学務事務	令和3年3月21日～令和6年3月20日(3年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年3月28日 13:30～14:30 (令和4年度学科運営に係わる開催)

第2回 令和4年9月21日 13:30～14:30 (令和5年度学科運営に係わる開催)

第3回 令和5年3月27日 15:00～16:00 (令和5年度学科運営に係わる開催)

第4回 令和5年9月20日 15:00～16:10 (令和6年度学科運営に係わる開催)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回(令和3年度学科運営:進捗事案)

カリキュラム構成・改善

【委員意見】2年で学生の質が上がった。その理由として、リモートワークが時間が取れて効いている。

→今後、効果的なリモートワークの取り組みを検討していく。

現実のイベントが打てなかったのでWebへ移行している。リアルなイベントへの参加も検討すべき。

→外部イベントへの参加の計画を行っていき、作家との交流を元に技術の向上機会を設けたいと考えます。

第2回(令和4年度学科運営:計画事案)

カリキュラム構成・改善

【委員意見】授業実施内容を見て、できる人向けの流れがみえるが今後、テクニックを磨いていけるような取り組みが必要と思われる。

→選択授業の組み方や、授業内容の工夫により、学生個々の能力に合わせた指導体制を取っていく。

第3回(令和5年度学科運営:進捗事案)

カリキュラム構成・改善

【委員意見】イラストの仕事に関わるのであれば、AIの登場で恐怖感はあるが、キャラづくり利用するなら「AIとどう付き合っていくか、どう利用していくか」の検討を始めていく必要がある。

→AI技術の活用はフォトショップのアプリツールで手書きの絵を様々な作風にするツールもあり、授業内容に取り組んでいきたいと考えます。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

デザイナーに必要なスキルの修得として、様々な業種のクライアントが想定される。どのような業種・職種に関わらず、企業と連携を図ることで、多種多様なデザインの制作が出来るようになることや、社会と学生が関わり成長することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業との連携関係においては、学生が企業の仕事を理解するために、企業から実務に即した講義を受け、実習を通じて打合せ等を重ね、業界・業務水準を体感できる内容とする。

<授業内容と実施方法、学修成果の評価における企業連携について>

マンガやイラスト制作の技術知識修得と、業界就職・デビューに必要となる能力の体得するため、各科目で連携企業の課題提示と説明から始め、制作指導を受けながら目標達成を目指す。また習得度は中間チェックにより確認すると共に、最終の成果物に対して連携企業担当者により、業界水準で評価を行うことで学生自身も成長を自覚し、新たな目標に向かい取り組んでいく。

<連携スケジュール>

・「企業担当者による案件説明と講義（クライアントによる依頼事項含む）」：1回

↓

・「デザイン制作指導」：3回

↓

・「学習成果の評価：学生プレゼンテーション（クライアントへのプレゼンを含む）」：1回 ……成績、単位評価に反映

↓

・「商品化」……企業側の裁量により商品化

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
マテリアル	画材や各種材料を用いて表現技法を修得し、マンガ・イラスト制作の実践力を養う。	株式会社AKR
マンガ紙面構成基礎	マンガ原稿の基本的な使いい方から、コマ割りの基礎を学び、業界水準の制作技術と表現力を体得する。	株式会社TCG
スタジオワーク基礎	展示会イベントの企画を中心にしたグループワークで、協力制作することでコミュニケーション力の向上を図る。	株式会社AKR
スタジオワーク応用	グループで即売会イベントの参加を実際に経験し、マーケティングリサーチによる研究を通じて商品制作を行う。	株式会社AKR
マンガ制作実習C	投稿用マンガ原稿制作のベタ塗り、スクリーントーンなどの仕上げ作業を通し、計画性、クオリティを修得する。	株式会社TCG

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業と連携した研修は、教員に対して職務の遂行に必要な知識、技能等の習得と学生指導や学生に対しての各種個別カウンセリング能力を高めることにより、教員の資質等の向上を図ることを基本方針とする。また、研修は、校長により計画・実施され、教員の勤務年数や性行、学生アンケート結果、学生の退学率や就職率等により判断し、当該教員に必要と思われる研修を受けさせるよう努めなければならない。また、教員は研修に対し、企業の指導が効果的に実施されるよう従い、自身の知識、技術の習得や学生指導力等の向上に努めなければならない。

<研修等計画の具体>

・年度計画・・・基本として、毎年度作成により実施

※但し、学校運営の進行において、校長が必要と判断した場合、以下のプロセスを経て実施

1.「学科担任は、企業等からの業界情報および教育編成委員より指摘事項の共有」

→2.「学科担任は、研修等案(対策・対応案)を作成」

→3.「定期週内会議にて報告し、当該教員の研修時期と内容を定める」→4.「校長の承認」→5.「研修・講習等の参加」

→6.「定期週内会議報告(進捗含む)」→7.「状態に応じて教育反映の精査(校長判断による)」

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業と連携した研修は、教員に対して職務の遂行に必要な知識、技能等の習得と学生指導や学生に対しての各種個別カウンセリング能力を高めることにより、教員の資質等の向上を図ることを基本方針とする。また、研修は、校長により計画・実施され、教員の勤務年数や性行、学生アンケート結果、学生の退学率や就職率等により判断し、当該教員に必要と思われる研修を受けさせるよう努めなければならない。また、教員は研修に対し、企業の指導が効果的に実施されるよう従い、自身の知識、技術の習得や学生指導力等の向上に努めなければならない。

<研修等計画の具体>

・年度計画・・・基本として、毎年度作成により実施

※但し、学校運営の進行において、校長が必要と判断した場合、以下のプロセスを経て実施

1.「学科担任は、企業等からの業界情報および教育編成委員より指摘事項の共有」

→2.「学科担任は、研修等案(対策・対応案)を作成」

→3.「定期週内会議にて報告し、当該教員の研修時期と内容を定める」→4.「校長の承認」→5.「研修・講習等の参加」

→6.「定期週内会議報告(進捗含む)」→7.「状態に応じて教育反映の精査(校長判断による)」

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「デビュー実現の方法」	連携企業等:	株式会社白泉社
期間:	令和4年7月28日(木)	対象:	学科担任、教員、アシスタント
内容	漫画家・イラストレーターとしてデビューするための具体的な取り組み方を学ぶ。		
研修名:	「縦読みマンガ研修」	連携企業等:	NHN comico株式会社
期間:	令和4年11月14日(月)	対象:	学科担任、教員、アシスタント
内容	縦読みマンガを仕事にする上で、市場の動向と取り組み方について学ぶ。		
研修名:	「生活設計・家計管理について」	連携企業等:	SMBコンシューマーファイナンス
期間:	令和5年3月1日(水)	対象:	学科担任、教員
内容	夢や目標の実現に向けて、生計の立て方、長期的な人生計画と資金のライフプランニング方法を学ぶ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「ハラスメント・メンタルヘルス研修」	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和4年10月3日(月)～10月7日(金)	対象:	学科担任、教職員、アシスタント
内容	各種のハラスメントと行為を十分理解すると共に、メンタルヘルスについて学び、学生達へ社会での働き方について、効果的な指導を行えるために実施。		
研修名:	「ヒアリング研修」	連携企業等:	株式会社ベネッセ i-キャリア
期間:	令和5年3月2日(木)	対象:	学科担任、教職員、アシスタント
内容	適切なフィードバックを行うことで気付きを与え、面談者との良好な関係を築くための技法を学び、専門技術、知識の指導力をより一層向上させる。		
研修名:	「タイムコーディネート研修①」	連携企業等:	TIME COORDINATE(株)株式会社
期間:	令和5年3月30日(木)	対象:	学科担任、教職員、アシスタント
内容	時間の捉え方と価値観について学び、学生が主体的に人生を生きていくための指導力を習得する。		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「AIと著作権について」	連携企業等:	文化庁
期間:	令和5年6月19日(月) 実施済み	対象:	学科担任、教員、アシスタント
内容	AIと著作権の関係とAI生成物における著作権を学ぶ。		
研修名:	「租税とインボイス制度」	連携企業等:	名古屋税理士会 名古屋中支部
期間:	令和5年11月実施予定	対象:	学科担任、教員
内容	個人事業として活動する学生指導上でも必要な、税金の意義と必要性を学ぶ。		
研修名:	「投稿ガイダンス研修」	連携企業等:	株式会社白泉社
期間:	令和5年1月 実施予定	対象:	教員、アシスタント
内容	マンガ業界の動向を知り、実際の業界基準へブラッシュアップする添削方法を学ぶ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「タイムコーディネート研修②」	連携企業等:	TIME COORDINATE(株)株式会社
期間:	令和5年6月29日(木) 実施済み	対象:	学科担任、教職員、アシスタント
内容	実際に目標設定を行い、グループごとに時間の使い方や目的達成について、現状分析の上で具体化し実践計画を立てる。		
研修名:	「ヒアリング研修」	連携企業等:	(株)ベネッセi-キャリア
期間:	令和5年11月 実施予定	対象:	教職員、アシスタント
内容	面談者との良好な関係を築くための技法を学び、学生指導の質を一層向上させる。		
研修名:	「コミュニケーション研修」	連携企業等:	精神保健福祉士 藤野 裕道 氏
期間:	令和6年2月 実施予定	対象:	学科担任、教職員、アシスタント
内容	相手と意思疎通を図るための話し方と動作について学び、学生に伝わる指導方法を習得する。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「学校点検・自己評価」をもとに企業・業界、卒業生や地域住民を含めた「学校関係者評価」を実施し、ホームページ上で公開を行うとともに、その結果を踏まえた学校運営の改善に取組み、本校学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と充実を目指す事を基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか
(2)学校運営	1 目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
(4)学修成果	1 就職率の向上がはかられているか
(5)学生支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適切に行われているか
(8)財務	1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献をおこなっているか
(11)国際交流	1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(2) 学校運営「情報のシステム化等による業務の効率化」

◆委員評価 ⇒ 個人情報を取り扱う為…重点意識の依頼

◇学校活用 ⇒ 評価後 教員PCをセキュリティソフト更新

(3) 教育活動「業界団体との連携によるカリキュラムの見直し」

◆委員評価 ⇒ キャリア教育としての実践的な内容に変わる事が期待

◇学校活用 ⇒ 後期シラバスの修正と次年度(カリキュラム)を随時改訂していく

(4) 学修成果「卒業後のキャリア形成…学校の教育活動の改善に活用されているか」

◆委員評価 ⇒ 卒業生の活躍は生きた教材(手本)…成果のフィードバック

◇学校活用 ⇒ 就職課・広報課の2部署から卒業生の近況情報把握作業に着手OB/OGIによる在校生交流を検討

(5) 学生支援「卒業生への支援体制はあるか」

◆委員評価 ⇒ 卒業生にも就職・転職情報を配信できるサービスの検討

◇学校活用 ⇒ 卒業生に対して、卒業後も支援する体制として、活用しやすく改善、希望者には就職情報メールの配信サービスを行う

(10) 社会貢献・地域貢献「学校施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

◆委員評価 ⇒ 学校祭などで学校施設を開放 地域交流を検討願いたい

◇学校活用 ⇒ 地域交流イベントとして学校行事見直し→企画立案中ボランティア活動を含む地域に貢献できる活動を計画中

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
亀崎 敏郎	一般社団法人観光スケッチ協会 理事 (デザイン業界団体)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界団体
坂本 隆	株式会社たぎコーポレーション 総務部長 (デザイン業界・企業代表)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業委員
久保田 一成	税理士法人 横須賀・久保田 (本学園・名古屋地区監査)	令和4年4月1日～令和4年3月31日(2年)	税理士
河村 寛喜	専門学校名古屋デザイナー学院 卒業生代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生
田島 治郎	栄東まちづくりの会 顧問(地域住民代表)	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域住民代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.nag.ac.jp/evaluation/ndg.html>

公表時期: 令和5年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等関係者に情報提供することで、相互の対話が促進され、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、産業界のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善をする意図がある。その他、地域住民等に情報公開することで、地域に関わる取組みへの理解・支援を得る。また、入学検討者に対し、希望する進路・将来進む業界へ合致しているか明確に示すことや進路指導への活用に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1 校長名2 所在地3 連絡先4 沿革5 施設・設備6 組織図
(2) 各学科等の教育	1 定員数2 目指す資格3 取得資格4 主な卒業後の進路
(3) 教職員	1 教職員人数・構成
(4) キャリア教育・実践的職業教育	1 就職支援等の取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	1 学校行事
(6) 学生の生活支援	1 心のケア
(7) 学生納付金・修学支援	1 学費2 修学支援
(8) 学校の財務	1 貸借対照表
(9) 学校評価	1 自己評価報告書2 学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <http://www.nag.ac.jp/evaluation/ndg.html>

公表時期: 令和5年8月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			デザイン概論	社会におけるデザインの位置付けやデザインの果たす役割を学び、テーマ・コンセプト立案方法を習得する。	1 通	64	4	○			○		○		
2	○			生活文化論	時代と共に変化する生活形態に対し、デザインがどのように関わり、今後どのように発展していくかを考察する。	1 通	64	4	○			○			○	
3	○			色彩演習	色彩理論の原点、色の三属性＝色相・明度・彩度について学び、配色や色による心理効果など色彩感覚を養う。	1 通	64	4		○		○		○		
4	○			視覚伝達論	絵や写真、コンピュータグラフィックスなどの視覚的な表現で伝達することを目的とし、その技術を習得する。	1 通	64	4	○			○			○	
5	○			デザイン心理	デザインの構成物により心理的な変化を与えるプロセスを学び、デザイン制作物による対象者の心理変化を分析、考察する。	2 通	64	4	○			○		○		
6	○			印刷論	印刷に関する知識を学び、トンボや構成指示から印刷物としての完成までを習得する。	2 通	64	4	○			○		○		
7	○			広告論	広告概論の基礎知識に加え、時代背景に合わせて変化するマーケティングと広告ビジネスの動向を把握しながら、広告の役割について考察する。	2 通	64	4	○			○		○		
8	○			デザイン史・美術史	古代から中世～現代までのデザイン及び美術における役割を、時代背景と共に学ぶ。	2 通	64	4	○			○		○		
9	○			デッサン	描くことの根本である「物を捉える事」を学ぶため、静物デッサン・人物デッサン・空間把握の為に風景スケッチを行う。	1/ 2 通	128	8		○		○		○		
10	○			スタジオワーク基礎	展示会イベントの企画を中心にしたグループワークを行い、各自が仕事に責任を持ち、協力することでコミュニケーション能力の向上を図る。	1 通	64	4		○		○		○		○
11	○			マンガ紙面構成基礎	マンガ原稿の基本的な使い方から、コマ割りの基礎を学ぶ。	1 通	64	4		○		○		○		○
12	○			レタリング	明朝体やゴシック体に始まり、既存の文字の描写を行い、文字の基礎を習得する。	1 通	64	4		○		○			○	

13	○		タイポグラフィ	マンガ作画に必要な擬音や書き文字を習得するため、文字デザインの基礎から学ぶ。	1通	64	4		○		○			○	
14	○		基礎造形	立体物を平面に書き起こし、平面構成として表現する。	1通	64	4		○		○			○	
15	○		マテリアル	画材や各種材料を用いて表現する技法を学ぶ。	1通	64	4		○		○			○	○
16	○		アドバタイジング基礎	マーケティングを軸とした広告表現を習得する。	1通	64	4	○			○			○	
17	○		マンガ制作実習A	投稿用マンガのネームを制作する。	2通	64	4			○	○		○		
18	○		マンガ制作実習B	投稿用マンガの原稿制作(下描き)からペン入れまでを行う。	2通	64	4			○	○		○		
19	○		マンガ制作実習C	投稿用マンガの原稿制作ベタ塗り、スクリーントーンなどの仕上げ作業を行う。	2通	64	4			○	○		○		○
20	○		マンガ創作研究	マンガジャンルを取り扱う出版社にアプローチをする際に重要となる基礎能力・知識を学ぶ。	2通	64	4			○	○			○	
21	○		スタジオワーク応用	グループで即売会イベントの参加を実際に経験し、マーケティングリサーチの上で商品制作を行う。	2通	64	4			○	○			○	○
22	○		マンガ紙面構成応用	マンガの演出において、より効果的な画面効果、構成を学ぶ。	2通	64	4			○	○		○		
23	○		アクセス	業種や職種のリサーチから具体的な企業リサーチを行い、業界を目指すための知識を学ぶ。	2通	64	4	○			○		○		
24		○	編集デザイン	IN Designを用いた編集物制作の基礎知識の理解と作品制作を通じてのトレーニングを経験し、地域と協力したフリーペーパー制作などを行う。	1/2通	128	8			○	○			○	
25		○	キャラクターデザイン(ファンシー)	キャラクター構成要素を学ぶ。キャラクターの外見だけでなく、根本的内部や環境・状況なども考えて設定していく。	1/2通	128	8			○	○			○	
26		○	キャラクターデザイン(ゲーム)	既存のキャラクターがどのような要素、設定で構成されているのか考察し、キャラクター構成要素を学ぶ。	1/2通	128	8			○	○			○	
27		○	デジタルマンガ	「CLIP STUDIO」の基本制作を習得し、マンガのデジタル原稿制作を行う。	1/2通	128	8			○	○			○	

28		○	コミックイラスト	コミックイラスト業界でのポジションから、仕事を請け負うのに必要な能力や技術を学ぶ。マーケットを意識した作品研究などへ企画実践する。	1/2通	128	8			○	○			○	
29		○	ドローイング基礎	背景や小物類の描写の仕方、表現の仕方を学ぶ。	1/2通	128	8			○	○			○	
30		○	絵本制作	絵本の作成における企画構成から、絵の描き方、製本までを学ぶ。	1/2通	128	8			○	○			○	
31		○	写真実習	作品を撮るため、写真撮影の基礎知識を学ぶ。	1/2通	128	8			○	○			○	
32		○	デジタルコミック	「CLIP STUDIO」の基本操作を習得し、コミックイラストのデジタル原稿の制作を行う。	1/2通	128	8			○	○			○	
33		○	ドローイング応用	ポートフォリオ用の背景、小物類データとして仕上げ作業を行っていく。	1/2通	128	8			○	○			○	
34		○	シルクスクリーン	各自デザインした絵柄や模様のデザインから、版を製版し印刷する技術を学ぶ。	1/2通	128	8			○	○			○	
35		○	クロッキー	短い時間内で物の動き(重心やバランス)を捉える技術を習得する。	1/2通	128	8			○	○			○	
36		○	DTP	Illustrator・Photoshopを用いた印刷物制作の基礎知識を理解するため、作品制作を通してトレーニングを行う。	1/2通	128	8			○	○			○	
37		○	インターンシップ研修	企業研修および企業における販売促進ツールの制作提案など、企業連携の実技を行う。	2通	32	2			○			○	○	
合計					37	科目	202 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：所定の課程を修了し、試験に合格した者について平素の成績及び品行を		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：2年間4期制の授業を受講。所定の単位数を取得しなければならない。		1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。